

育児と仕事に奮闘する日々

入所し早10年、正規職員になり4年。
この間に出産を経験し、
目下育児と仕事に奮闘する日々を送っている。

法律事務所職員 松本 華子

正常勤務が困難な私を 気遣ってくれる弁護士・事務局

2006年春、妊娠判明直後よりひどいつわりに見舞われ入院。長期に休みを取らざるを得なくなった。当時は正規職員になって1年あまり、担当していた破産事件があり、同僚・先輩方に引継をしていただくことに。事件数は少ないものの、満足な引継も出来ず大変な迷惑を掛けてしまった。退院後の体調が優れず、産休に入る予定日より2週間前より休むことになった。

実に妊娠中に正常勤務をしていたのはたったの2ヶ月。

その間、弁護士・事務局のみなさんは少しもいやな顔をせず、身体を気遣ってくれた。

晩秋に無事男児を出産し、出生届とともに保育園の入園申し込みをした。めでたく4月から入園が認められ、復帰を果たすことができた。

働く女性にやさしい職場環境 今度は私もサポート側に

しかし、入園したとき息子は4ヶ月。すぐに風邪をひき、中耳炎を繰り返し、仕事は休みがちになった。そして休みのしわ寄せは他の事務局へ…。しかし先輩方は息子の心配をしてくれ、「無理しなくていいのよ。」と声を掛けてくれた。

法律事務所で働く事務員は女性が多く、我が事務所も男性事務員はいない。

我が事務所では、産休・育休を取得できる環境であり、働く者にとっては大変にありがたいことである。また、復帰後もサポートをしてくれている。

これから、まだまだ、産休・育休を取得するであろう若い職員がいる。私もしっかりサポートできるようになりたい。

仕事の難しさ、おもしろさも実感 スキルアップを図っていきたい

さて、正規職員になり、はや4年。破産事件や執行事件などたくさん的事件を経験し、依頼者から直接お話を伺う機会が増えた。また、新人の指導なども担当することがあり、話を聞く難しさや、自分の思っていることや知識を伝える難しさを感じている。

わかりやすい言葉で説明し、理解を得るためには自身の知識が豊富でなければならないことを実感し、勉強の日々を過ごしている。

我が事務所は11人の弁護士がおり、事件種も様々、同じような事件でも関係者が異なるため対応も変わる。このようなところに仕事のおもしろさや充実感を感じている。

これからも自身のスキルアップを図り、充実した日々を過ごしていきたいと思う。